

# 矢部広域病院が担う 役割について

2019年3月5日  
医療法人杏章会 矢部広域病院

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状】

### 基本理念 **安心の提供**

#### 診療

#### **愛し愛される病院づくり**

- ・ 患者さん本位の診療
- ・ 知識や技術の習得と向上
- ・ 地域社会への貢献

#### 経営

#### **体質の強い病院づくり**

- ・ スタッフの充実、設備の充実
- ・ 誇りとやりがいをもって働ける職場
- ・ 健全で安定した経営基盤

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状】

### 主な施設基準

急性期一般入院料6(10対1 27床)、地域包括ケア入院医療管理料2(16床)、療養病棟入院基本料1(42床)、運動器リハビリテーション料( )、呼吸器リハビリテーション料( )、脳血管疾患等リハビリテーション料( )、廃用症候群リハビリテーション料( )、在宅療養支援病院3、がん治療連携指導料、医療安全対策加算2、感染防止対策加算2、人工腎臓 等

### 診療科

内科、消化器内科、循環器内科、外科、消化器外科、肛門科、整形外科、麻酔科

### 主な設備

MRI室、CT室、X線・透視室、内視鏡検査室、生理検査室、検体検査室、手術室、人工透析室、リハビリテーション室、救急搬入室 等

### 職員数 計109名

医師 16名(常勤 3名 非常勤 13名)、薬剤師 2名、看護師 18名 准看護師 24名、看護補助者 13名、管理栄養士 1名、放射線技師 2名、臨床検査技師 3名、臨床工学技士 1名、理学療法士 5名、作業療法士 1名、事務員 18名、業務補助者 5名

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状】

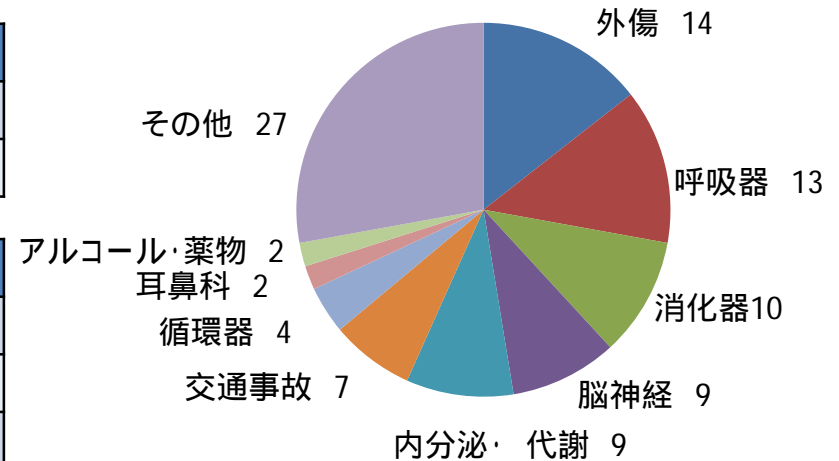
外来	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来患者数 (人)	31508	29668	28179
救急搬入件数 (件)	99	107	99

一般病床	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数 (人)	9146	7640	7509
平均在院日数 (日)	17.28	16.01	16.04
稼働率 (%)	80.66	77.31	76.19

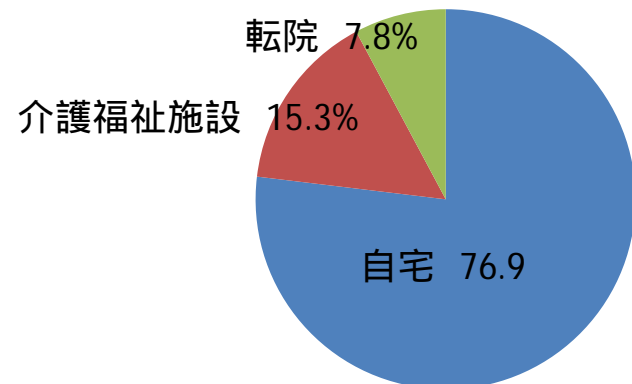
包括病床	平成27年度 7月～3月	平成28年度	平成29年度
入院患者数 (人)	3560	4393	4227
稼働率 (%)	80.90	75.01	72.38
在宅復帰率 (%)	89.60	95.26	90.34

療養病棟 (42床)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数 (人)	13175	11363	10793
稼働率 (%)	85.94	73.92	70.40

平成29年度救急搬入内訳(人)



平成29年度患者退院先(%)



# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 災害拠点病院

当院は平成9年に災害拠点病院の指定を受けている。平成23年の東日本大震災時には宮城県気仙沼市で医療活動を行い、平成28年の熊本地震時には避難所支援活動を行った。現在、DMATおよび院内の定期的な災害医療訓練、保健所や他の医療機関とのEMIS訓練、災害医療コーディネートチームへの参加など積極的に行っている。

### 在宅療養支援病院

当院は平成27年より従来の一般病床43床のうち16床を地域包括ケア病床に変換し、急性期・亜急性期治療後の患者の在宅復帰促進に努めている。また、がんや終末期患者の24時間受け入れ、レスパイト入院、施設入所調整支援、提携施設や在宅への訪問診療なども積極的に行っている。

### 人工透析治療、難病協力病院、学校・警察嘱託医

#### 【課題】

山都町は近年、人口減少、少子高齢化（高齢化率46.5% 2019年1月末）が他の地域に比べ急速に進んでいる。医療・福祉の現場においては、医師、看護師、コメディカルあらゆる職種の人材確保が困難となっており、今後の地域医療体制の維持が危ぶまれる。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### 急性期から回復期、在宅医療、終末期医療へ

当院は平成18年に救急告示病院の指定を辞退しているが、現在でも一定数の救急搬入や時間外診療に対応しており、今後も急性期医療を継続していくことは必要と考える。また、治療を終えた患者の在宅復帰や施設入所を支援・調整するための地域包括ケアシステムの構築、リハビリテーションにも積極的に取り組んでいくとともに、終末医療・看取りにも尽力する。

#### 災害医療

山都町のような山間地であるからこそ、毎年起こりうる大雨、土砂災害や平地・海岸部を中心に全国的危機に直面する南海トラフ地震に備えるためにも、当院が災害拠点病院としての機能を有する意義は大きいと考える。今後も行政や関連機関と連携を深め災害医療体制の構築を目指す。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2018年	2023年	2025年
高度急性期			
急性期	43 (地域包括ケア 16床含む)	43 (地域包括ケア 16床含む)	43 (地域包括ケア 16床含む)
回復期			
慢性期 (医療療養型)	42	30	30
その他			
合 計	85	73	73

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

#### □ 今後の療養病棟のあり方について

##### (ア) 転換の必要性や背景

当院の療養病棟（医療療養型 42床）では、近年、空床が増加している。これまで長期入院していた患者の死亡退院が増加したこと、医療区分、 の基準を満たす患者の新規入院が増加しないことが要因として考えられる。

##### (イ) 転換後どうするか

療養病棟入院基本料を1から2へ変更して受け入れる患者の枠を広げ病棟運営を維持する。その一方で、患者に住まいや看取りの場を提供できる **介護医療院** の設置を検討する。



### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【 診療科の見直し 】

	現時点 (2019年3月)	2025年	理由・方策
維持	内科、消化器内科、 循環器内科、外科、 消化器外科、肛門科、 整形外科、麻酔科	変更なし	
新設	なし	なし	
廃止	なし	なし	
変更・統合	なし	なし	

### 3 具体的な計画

#### (2) 数値目標

	現時点(2018年12月時点)	2025年
病床稼働率	一般病床：71.48% 地域包括ケア病床：78.12% 療養病床：48.09%	一般病床：85% 地域包括ケア病床：85% 療養病床（減床後）：90%
紹介率	8.0%	15～20.0%
逆紹介率	11.6%	10.0～15.0%

## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 【取組みと課題】

##### □ 病床稼働率、紹介率

今後、人口減少、高齢化が加速していくことが予想される山都町において外来・入院患者数を維持、確保していくことは容易ではない。しかし、急性期・亜急性期医療から地域包括システム、災害医療まで対応し、地域で必要とされる病院として医業を継続していくためにも医師をはじめ**医療スタッフの確保**を最優先課題とし、**行政や関連機関との連携、町内や近隣地域への情報発信**を強化する。需要や適応が限られ、将来、廃止に向かう可能性のある療養病棟の運営については、減床あるいは他機能病床への転換を検討する。